

『やさしく』 『つよく』 『かしこく』

【令和6年度重点合言葉】 早寝・早起き・メディアコントロール



上河内東小学校だより

令和6年度 1月号

発行責任者 清水敬信

令和7年がスタートしました

あけましておめでとうございます。令和7年がスタートしました。保護者や地域の皆様方におかれましては、本校教育活動に対しまして、昨年は様々な形でお力添えをいただきありがとうございました。皆様方にとりまして、今年も幸多き年となりますようお祈り申し上げます。

学校は、1月8日（水）から授業がスタートしました。今年も全職員一丸となって、質の高い教育活動を推進してまいりたいと思っておりますので、引き続きご支援・ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

感謝の会がありました！

1月22日（水）のなかよしの時間に、本校体育館において日頃お世話になっている方々への「感謝の会」が児童会代表委員会により行われました。感謝の会を開催する目的といたしましては、日頃よりお世話になっている方々について、その仕事を理解し、自分たちのために働いている人への感謝の気持ちを表そうとする態度を養うこととしています。代表委員の児童たちは当日を迎えるにあたり、入念にリハーサルを行うなど、準備をがんばってまいりました。ご招待のためにお声をかけさせていただいた19名の方々は、交通指導員・駐在さん・安全パトロール・田んぼの管理・ボランティア（農園・珠算・図書）地域コーディネーターなどです。当日はお忙しい中、12名の方々にご出席いただきました。感謝の会では、6年生の代表児童が感謝の言葉を述べ、1年生と代表委員がご招待者皆様に花と感謝の手紙を贈呈いたしました。その後、ご招待者を代表し、安全パトロールと田植え稲刈りの指導の小林計公様からご挨拶をいただきました。全校児童が、改めて普段からお世話になっている方々のことを考えるよい機会となりました。ありがとうございました。

本校の教育活動は、今回ご招待をさせていた方々を始めとして、とても多くの皆様のお力添えにより成り立っております。ここまで大きな事故もなく良い形で教育活動を進めることができましたのも皆様方のご協力のお陰です。引き続き今後とも、本校の教育活動の充実のためご支援・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



上河内地域学校園 児童生徒指導強化連絡会 PART2

12月5日(木)の第2回児童生徒指導強化連絡会で河内教育事務所学校支援課副主幹 野口 幹 様から聞いた、ためになるお話の2つ目をご紹介します。

☆健やかな成長を支える関わり

○子どもと本音で話し合える関係づくり

子どもの心理的事実を受け止め、マイナスな言葉も言える環境の確保や、関係づくりが大切である。

「むかつく、うざい、許せない、だるい、つかれた…」と言える場所、聞いてもらえる人が必要である。

※子どもも弱音を吐きたいもの、そこに「いい・悪い」で返さず、「そうだったんだね」などで返しておく。その後「結局あなたはどうしたの？」などと聞き、その子ができたプラスの面をほめる。「けんかにならないように我慢できたなんて偉いね」「自分からその場を離れたことは素晴らしいことだったよ」など。

○子どもの乗り越える力や回復力を育む

子どもが自身で生きていける力をつけることが大切である。何が起きるかわからない時代である。

失敗しない力より、失敗しても乗り越える力を身につけさせることが重要である。

そのためにも、失敗をしても、取り戻せるという経験をさせると良い。小さな失敗を自分で乗り越えたり、取り戻し、回復したりする経験をする中で、徐々に課題を見いだしたり、他者と協働しながら柔軟に解決したりする力を身につけていくのである。

大きすぎない課題を与え、教師や保護者が前面に出て解決するのではなく、あたかも自分で乗り越えたかのようにそっと支えるのがポイントである。

○再発防止策を一緒に考える

過ちを起こしたときは、次同じことが起きないようにするにはどうすればいいかを一緒に考えることが大切である。実際に同じような場面で、過ちを回避できた場合、成長したことを実感できるようになる。

叱って謝らせたり、罰を与えたりしても、成長にはつながらないことが多い。失敗したときこそ、成長できるチャンスである。

上記のような内容のお話を伺いました。

学校で何かトラブルがあったときは、複数の児童から話を聞き、客観的に何があったのか確認していきます。子どもの話は、ごまかしたりうそをつこうとしたりするつもりがなくても、その子のフィルターを通ったときに“ずれ”が生じる場合があります。客観的な確認ができた後は「再発防止を一緒に考える」ことを基本に指導していきます。

ご家庭でも、何かあったとき、上記の話を念頭に置いて接してみてはいかがでしょうか。よろしくお願いたします。